

第1回周南市地域とともにある学校づくり推進協議会 会議要旨

開催日時：令和6年5月23日（木） 14:00～15:30

開催場所：周南市シビック交流センター2階 交流室1

主催者：周南市教育委員会 学校教育課

参加者：周南公立大学地域共創センター長、小・中学校長会長、公立学校教頭会代表、
学校運営協議会会長、PTA連合会代表、地域学校協働活動推進員代表、周南市役所関係各課担当者

1 開会行事

主催者あいさつ（周南市教育委員会学校教育課課長補佐）

～課長補佐あいさつ～

2 学校教育課所管説明

（1）今年度の取組

- ・周南市で育てたい子ども像に迫る具体的手立てとして、①地域学習、②キャリア教育、③主体性を育む活動実践を大きな柱として、社会と一体となって子どもの育ちや学びを支え「地域とともにある学校づくり」を推進
- ・周南市の地域連携教育の推進方向や地域連携教育年間フロー（各種研修会、会議の開催）について
- ・今年度の「地域連携教育」の取り組みをPDC Aサイクルに当てはめると、本日の協議会がP（計画）にあたり、D（実行）は各学校で、CA（評価・対策）は来年2月に開催予定の本協議会で行う
- ・地域連携担当教職員研修会、行政担当者会議について
- ・全国学力・学習状況調査の回答結果
- ・熟議に参加した児童・生徒の感想・学びについて
- ・コミュニティ・スクールに関するアンケート調査について

（2）昨年度からの課題

- ・活動の精選を含めた、カリキュラムの見直しや周知
- ・教職員間や小中間、学校と地域との情報共有や交流
- ・熟議に参加した子どもたちの意見や思い参加していない子どもたちに届ける
- ・子どもが参画（にないあう）できているか
- ・より多くの大人（特に保護者世代）の参加を増やす

3 グループ協議・発表

- ・周南市の地域連携を推進していくための具体策「令和6年度3つ（教職員、児童生徒、地域住民・保護者に向けた）のアクションプラン」の項目について協議、市教委で内容を精査し作成する
- ・今年度の地域連携教育に関する研修会や学校運営協議会等で周知する

A 教職員へのアクションプラン

- ・ カリキュラムを精選・重点化するとともに、学校・地域・児童生徒の役割を明確化し、めざす子ども像の実現に向けて、系統性のある目標を立てる
- ・ 地域を学習活動の場とした教育活動を充実させる
- ・ 子どもの主体性を引き出す教育活動を計画する
- ・ 学校教職員と地域との関係性を深める

B 児童生徒へのアクションプラン

- ・ 子どもたちは「やりたい」を提案する
中学生：地域への貢献を考えながら、アイデアを出す
小学生：みんなで一緒に何かしたいが良い
- ・ 「やりたい」を進めていくために、熟議を行う
- ・ 子どもたちの力で「やりたい」を実現させていく（みんなが参加して進める）
- ・ 生徒会や児童会（代表委員会）で、学校運営協議会の意見を取り入れる仕組みを作る

C 地域住民・保護者へのアクションプラン

- ・ いつも関わっている人以外にも、心に響くように声をかける、情報を届ける
- ・ 必ず一つ、子どもが参画して地域の人や保護者が関わられるような企画を行う
- ・ 子どもが参加する熟議での意見や、やりたいことを、学校運営協議会等に参加する大人たちが具現化させる
- ・ 参観日等の行事を活用し、保護者世代を巻き込む

4 講評：徳山エリアCSチーフ 長谷川 敬 様

- ・ 保護者のコミュニティ・スクールに関する認知度は低い
- ・ 持続可能な仕組みを作るには、いかに保護者世代を巻き込めるか
- ・ 市長部局の市職員も複数名参加している点がとてもすごい

講評：山口県地域連携教育推進協議会代表アドバイザー 木本 育夫 様

- ・ これまでの本協議会は市教委が作成したアクションプランを報告するのみであったが、具体的な内容を協議することで、委員も自分事として考えることができた
- ・ 学校・地域連携教育カリキュラムを中心に教職員と地域住民が話し合うことが大事
- ・ 保護者の参加率が低いことはどこの地域でも一緒。集まる機会を活用し、出来るところから一つ一つ取り組む

5 閉会行事

周南市地域とともにある学校づくり推進協議会長あいさつ

～周南公立大学 地域共創センター センター長 立部 文崇 様～

- ・ 子どもたちの「天井（限界）」を教育の場で作らない
- ・ 子どもたちのやりたいことをどうやって導くか、出してもらうには、知らないと出せない、出すには経験が必要
- ・ 保護者へのアクションプランは保護者に届いているのか、せっかく作成するのだから、伝えていく機会を作ることが必要ではないか